



お試し移住 大磯に拡大へ

「10-12月、2泊3日、3拠点」で申請

元気なコミュニティ協議会・空き家対策部会(廣上正市部会長)は、一般社団法人・海鈴大磯(富山昇代表理事)と連携してお試し移住を大磯町にも拡大する方針を決め、国土交通省に事業申請した。10-12月にかけて百合が丘、大磯の計3か所で2泊3日のお試し移住を実施する。併せて応募者には空き家の利活用案の提出を求め、地域のキーパーソンとの懇談会を開くなど対象エリア、事業内容の両面でより踏み込んだ活動を計画している。補助申請は4年連続で、採否は7月にかけて明らかになる。

申請事業の名称は、二宮・大磯空き家クリエイティブ・マッチング・コミュニティ(CMC)事業。最大の特徴は、お試し移住の対象を大磯町に広げるとともに、一部で物件不足が言われている空き家の掘り起こし。お試し事業では昨年度と同じくガイダンス、先輩移住者との相談・交流会、物件案内などを両町で行う。大磯への拡大は、二宮町と生活圏が重なっているうえに、町外移住者にとってはより広い対象から選択できるようになるとの判断から。潜在的な物件の掘り起こしでは、応募者やお試し居住者に希望物件のイメージやそこでのビジネスプランをプロポーザル資料として出してもらい、潜在的な空き家の情報を持つ地元事業者やコミュニティ人材との懇談の場を設けることなどを検討中。

連携が決まった海鈴大磯は、ふるさと回帰支援センターなどと組んで移住、定住対策や広範なまちづくり活動に取り組んでいる。今回の申請事業はそれぞれが並行して行うことになるが、連携の拡充やさらなる一体化案についても検討する。

生涯学習 順調なスタート

4月から始まった生涯学習部会(山本正博部会長)の講座が順調に立ち上がった。4月、5月とそれぞれ2回の企画を具体化した



が、講座形式の3回はいずれも定員いっぱい参加があった。事実上の第1回目になった原道子先生の「子供の多様性 どの子ども伸びる」は50人弱(左写真)、鈴木滋弁護士「法律から学ぶ生きる知恵」も、法律という専門性が高いテーマにもかかわらず一色小こうりゅうルームが満杯になった。直近の平田大二・県立生命の星館長の「二宮の大地の特徴と自然災害」では開催日前に申込みが定員50人に達してしまい、申込みをお断りするほどになってしまった。山本部会長は、「全町を対象にした呼びかけが受け入れられている。このペースを今後もキープしたい」と語っている。

なお、4月に二宮町に提出した地域生涯学習振興補助金申請が正式に受理され、このほど20万円/年の支給が決まった。申請では、町中心部と一色小こうりゅうルームを会場に、年度内に16回の講座(屋外イベントを含む)を実施したいとしている。

(6月以降の内定スケジュールは裏面に)

6月からの生涯学習スケジュール(内定分)

もう一度「小中一貫」を考える

原 道子先生

(このみや子ども応援隊代表)



6・12(日)
10:00～

町民センター2A
50名



もっと詳しく知りたい川勾神社

二見直樹宮司

中山史奈子学芸委員

6・25(土)
10:00～

川勾神社 50名

総まとめ「二宮の古道」

露木泰彦氏

(前二宮町文化財保護委員)



7・9(土)
10:00～

町民センター2A
50名



保険契約・安心生活への備え

損保ジャパン代表 安藤薫氏

7・23(土)
10:00～

町民センター2A
50名

ヤマユリ一般公開(一色小)

友情の山部会

7・23(土)～26(火)
10:00～15:00

一色小・友情の山

二宮の戦争遺構(洞窟塹壕)

藤田尚志氏ら

8・6(土)
10:00

町民センター2A
50名

二宮・大磯への期待

猪股篤雄東海大客員教授

(前県住宅供給公社理事長)



9・19(月)
10:00～

ラディアン M2
60名



老人ホーム最新事情

月岡祐一氏

(シニアライフアドバイザー)

9月
10:00～

町民センター2A
50名